



山 田 和 敏 教 授 近 影

## 献 辞

前経済学部長 世利 洋介

本号は、山田和敏先生の退職記念号として発行するものである。

山田和敏先生は、1993年に熊本大学商学部から久留米大学商学部に着任され、更に1994年の経済学部の改組に伴い経済学部経済学科に転籍、以来、本学部の発展に大きく寄与された。

経済学部さらには学部を超えて、山田先生の守備範囲は広い。まず教育面においては、経済学部の統計学教育の中心的役割を果たし、統計入門レベルから経済統計を用いた分析指導に至る迄、学部学生の統計処理教育の支柱であった。大学運営面においては、2011年から2015年に亘って、経済学部長として経済学部をリードして頂いた。また学部行政では、長年、入試検討委員として入試データ分析に携わり、厳しい定員倍率幅が求められる中、推計上の確なご指導を頂いた。更に、情報教育センター長として、今日のIR教育に至るシステム管理にも携わって頂いた。

学外における学会運営、社会貢献にも取り組まれてきたことも忘れてはならない。九州経済学会の理事（2017年～2022年）、副会長（2015年～2016年）、更に会長（2017年～2018年）を歴任され、九州における経済学に係る学会運営を支えてこられた。また久留米市において行政オープンデータの委員に携わり、行政情報の民間活用にも貢献された。

山田先生は常に周囲に意を砕かれ、気さくに我々教職員にお声掛けされ、学内の雰囲気をややかで安定したものにしてくださった。他方でまた、学内業務に対する姿勢において、ご自身に厳しく、我々の手本であった。その業務指導を仰ぎ、ご教示を頂いたことは我々一同、例外者はいない。

このたび2023年3月定年退職とともに名誉教授の称号が授与されたところである。また、ご退職後にあっても引き続き、特任教授として学生のご指導に携わって頂けることになっており経済学部にとって幸甚である。

ここに、山田先生の永年に亘る功績に感謝し、『経済社会研究』の退職記念号を発行する次第である。

## 献辞

経済学部長 伊佐 淳

本号は、2022（令和4）年度末に山田和敏先生退職記念号として発行される予定であったが、諸般の事情により、2023（令和5）年度に合併号として発行されることとなったものである。

山田和敏先生の経歴や業績については、すでに前学部長の世利洋介先生があらかた述べておられるので、ここでは、山田先生のお人柄や先生へのお願いについて一言述べ、先生への献辞とさせていただきます。

まずは、先生のお人柄について。

ちょうど四半世紀前の1998（平成10）年に、私は他大学から移籍してきたが、着任後早々にゼミ生による教員評が大学のHPで紹介されているのを拝見して、これが結構面白かったのを覚えている。

山田先生については、「仏様のようなお顔をしています」「とても優しいです」というような書きぶりであったと思う。私自身も先生に接してみて、正に、言い得て妙とはこのことかと思つた次第である。一方で、論理的思考が徹底されているのであろう、筋が通らないと思われることには、厳しい姿勢で臨まれると感じたこともしばしばあった。

次に、山田先生へのお願いである。

昨今、IoT（モノのインターネット化）に始まり、社会のデジタル化とも言うべきDX（デジタル・トランスフォーメーション）の促進が要請され、さらには、AI（人工知能）の進展に伴う活用と規制の議論が活発になってきている。要するに、社会のほとんどあらゆる面でアナログからデジタルに置き換わりつつあるということであろう。

こうしたデジタルの時代にあつてデータ・サイエンスの重要性が叫ばれ、全国各地で学部・学科の新設も散見されるようになってきたこの時代にこそ、その基礎となるのが統計学である（統計学については全くの素人なので、この点を先生に確認した。立ち話であったが）。つまり、今後、ますます統計学教育の重要性が高まってくることは間違いないといえよう。今年度より特任教授となられた山田先生には、時代を見据えた統計学の教育をお願い申し上げる次第である。